


氏名 ()


平野の地形と自然災害


作業 1：国土交通省の「重ねるハザードマップ」と、地理院地図の土地条件図を見て、各自が住んでいる地域の自然災害に対する危険性を調べる。

手順：

①PC または iPad でブラウザ（Google Chrome 以外）から「地理学概論のページ」を開いて、「使用する資料」の 11/27 の作業 1 の紫のボタン「ハザードマップ」をクリックする。

②開いた「重ねるハザードマップ」で、画面左上部の洪水アイコン  をクリックすると、洪水時の浸水範囲と浸水深が表示されるので、各自の現住所を見て、浸水するか否か、浸水する場合は浸水深がどのくらいかを確認して、右の表に記入する。

③画面左上部の土砂災害アイコン  をクリックすると、土砂災害危険箇所が表示されるので、各自の現住所を見て、土砂災害の危険があるか否か、危険がある場合は、どのような種類の土砂災害かを確認して、右の表に記入する。

④画面左上部の津波アイコン  をクリックすると、津波による浸水範囲と浸水深が表示されるので、各自の現住所を見て、津波によって浸水するか否か、浸水する場合は浸水深がどのくらいかを確認して、右の表に記入する。

⑤「地理学概論のページ」を開いて、「使用する資料」の 11/27 の作業 1 の紫のボタン「陰影図」および「段彩図」をクリックすると、地理院地図で陰影図および段彩図が、それぞれ表示されるので、各自の現住所を見て、どのような地形であるかを読み取り、右の表に記入する。

⑥「地理学概論のページ」を開いて、「使用する資料」の 11/27 の作業 1 の紫のボタン「土地条件図」をクリックすると、地理院地図で土地条件図（地形を分類した地図）が表示されるので、各自の現住所を見て、どのような地形であるかを読み取り、右の表に記入する。

⑦現住所にいる時に、大雨で洪水・土砂災害の危険が高まり、避難指示が出された場合どうするか、を考えて、右に記述する。

⑧現住所にいる時に、南海トラフを震源とする地震が発生して、大津波警報が発令された場合どうするか、を考えて、右に記述する。

	浸水・土砂災害の危険の有無	浸水深・土砂災害の種類	陰影図・段彩図から判読した地形	土地条件図に示された地形
洪水				
土砂災害				
津波				

・大雨で洪水・土砂災害の危険が高まり、避難指示が出された場合どうするか？

・南海トラフを震源とする地震が発生して、大津波警報が発令された場合どうするか？